



国宝 妻沼聖天山「本殿」シリーズ③



聖天さま由来

妻沼聖天山は斎藤別当実盛公が、当地の庄司として、祖先伝来のご本尊聖天さまを治承三年（一一七九年）にお祀りしたのに創まる。

実盛公は平家物語、源平盛衰記や謡曲実盛、歌舞伎実盛物語などに、武勇に勝れ、義理人情に厚い人柄が称えられている。次いで実盛公の次男斎藤六実長が出家して阿清房良応となり、建久八年（一一九七年）に本坊の歓喜院を開創した。

御本尊聖天さまは、正しくは大聖歓喜天と称せられ、弘法大師が唐より密教とともに仏法の守護神として請来されたから、日本でも祀られ、福運厄除の神として信仰されている。

妻沼聖天さまの御本尊は由緒の正しさでは日本最古の聖天尊像として知られ、特に縁結びの靈験あらたかで、夫婦の縁はもろんのこと、家内安全・商売繁盛・厄除け開運・交通安全・学業進学などのあらゆる良縁を結んでいたから、祈願を薦める人々が後を絶たない。

御本尊は錫杖の中央に祀られているので御正体錫杖頭として国指定重要文化財であるが、秘仏である。

開運
厄除け
縁結び

妻沼聖天山

国宝 御本殿

登録名称
「歓喜院聖天堂」



御本殿は、奥殿（三十四間）、相の間（二十七間）、拝殿（二十七間）よりなる廟型式権現造りで、奥殿は八棟造りである。建造物の各部材、各壁面を総て彫刻で装飾し、華麗な色彩が施されている。江戸中期の貴重な文化遺構である。

この御本殿の建築は、幕府作事方棟梁として活躍した平内政信の子孫で、妻沼の工匠林兵庫正清の設計によって施工され、その子正信に引き継がれ宝暦十年に仮屋根・安永八年に完成したものである。

当時の庶民・農民が永年に涉って浄財を出しつづけ、四十四年かけて完成した。多くの国宝建造物が権力側によって作られたのに対し、庶民の浄財で作られたことが稀有である。



ることも国宝の評価となった。
平成十五年より平成二十三年の八年間を要して保存修理工事が施され、外壁は創建当初の華麗な色彩が復元された。総工費十三億五千万円（内本体工事は十一億六千一百万円）で十億が国・県・市の補助金、三億五千万円がご信者の寄付。
寄附勧進にお応えいただいた各位に深く感謝申し上げます。

貴惣門

国指定重要文化財

当山の総門である「貴惣門」は、山口県吉川藩の作事方奉行長谷川重右衛門の秘伝を受け、林門左衛門正道の手により、弘化四年（一八四七年）に起工し、嘉永四年（一八五二年）に竣工した。

妻側からみた破風の形が、となっているのが特色である。様式の定形化する江戸末期にあつて、奇抜な意匠を採用したことは貴重なこととされ、関東地方には唯一の建物である。



奥殿大羽目彫刻 北面西・東

弁財天さまでしょうか、吉祥天さまでしょうか。今正にさいころの入った壺を振り下ろそうとしています。そばで毘沙門天（多聞天）さまが片肘ついて勝負の行方を見守っています。毘沙門天さまはいつも天邪鬼（あまじやく）を踏みつけているのですが、すぐろくの勝負に夢中になってしまい、天邪鬼を踏むのを忘れていきます。天邪鬼はひさしぶりに解放されてのびのびしています。手には主人の毘沙門さまの持ち物である矛（ほこ）を持っています。そして隣の場面の女神さまにおいておいでと手を振っています。なんともユーモラスな場面です。

かつては七福神には弁財天・吉祥天の二女神様がいました。ところが、今では弁財天様ひとりです。聖天様の七福神は古い形で、恵比寿・大黒・毘沙門・布袋・寿老人・弁財天・吉祥天の七神です。新しい形は吉祥天が抜けて福祿寿が入ります。すぐろくを必死の形相でやっているのは、どちらが残るかすごく勝負しいてのではありませんか。

この二面は北側で直射日光にはあたらないので、全体の劣化の中では割と古いものが残っているところでした。彩色を新しくするためには、古いものはそぎ落として、その上に新しく彩色をします。文化財の保存の上では、古くても優れた技術が残っていれば出来るだけそのまま保存するという前提があります。そのため、当初はこの二面はほこりを落とし、剥落止めをしてそのまま置くという方針でした。ほかの部分は全部きれいに修復されるのに、女神さまの一番華やかなところが、彩色の修復無しでくすんでままでは大修理を終了となったらご寄付いただいた皆さまにどう説明したらよいのか悩みました。ところが、修理専門委員で彩色を担当しておられた、馬場良治先生が画期的な方法を発明して下さいました。その方法とは、カビ・シミ発生防止のため、石粉を漉ぎ込んだ吉野薄口美須紙を養生和紙とし、それを小さく裂き、意図的に、繊維を毛羽立たせ、当初の彩色面にあらかじめ、膠液を混ぜた生麴糊を塗布し、和紙を筆で抑えて貼り付ける。和紙の毛羽立った端を隣の和紙の毛羽



左・修理前 右・和紙の張り付け

平成27年12月

院主 鈴木英全 誌

とからめて総持ちさせ、局所的な剥落を防ぐ。そしてその上に新しい彩色を施すという方法です。これにより、和紙の下には古い技術を残したまま新しい彩色が出来たのです。この方法は中国で開催された国際学会で報告されたとのことでした。そのようにして、無事に華やかに完成しました。

吉祥天さまと弁財天さまのすごろく

国宝妻沼聖天山「本殿」彫刻解説シリーズ 3



奥殿腰羽目彫刻 南西中「小間取遊七人」「梅」

南西「竹馬遊三人」「桜」蘇鉄

国宝として更に輝く妻沼聖天山本殿（登録名称「歓喜院聖天堂」）

このたび平成24年5月18日に文化財審議会は当山本殿を「国宝」するように文部科学大臣に答申されました。7月9日に正式に国宝に指定されました。埼玉県で建造物としては第1号、県内の国宝としては第5番目の指定です。日光の流れに更に進んだすぐれた技術と、多くの国宝建

造物が権力側によって作られたのに対し庶民の浄財により作られたことは稀有なこととして評価されました。

当山を開創された斎藤別当実盛公の志であり、本殿を造立した棟梁や喜捨された先祖の方々が祈りの場所のために作られた志を更に輝かして行かねばならないと思います。

国宝妻沼聖天山本殿 透塀(玉垣)内 拝観

平成15年から平成23年にかけての保存修理工事は国・県・市の補助金と2万人以上の方々の御寄附によって完成したものです。本券のご志納金を以て今後の維持・整備に当てさせていただきます。

〈下記のお願いとご注意をあらかじめご承知下さい。〉

- ① 受付時間は午前10時から午後4時まで（閉門は午後4時30分）です。
- ② 本券1枚につき1名様限り有効です。ただし中学生以下のお子様は2名まで同伴できます。
- ③ 場内の通行には十分ご注意下さい。通行中の事故等については責任を負いかねます。
- ④ 場内への飲食物の持込み及び喫煙は固くお断りいたします。
- ⑤ 場内でのビデオ・写真撮影・模写は許可しますが、建物・彫刻に触れたり、傷をつけたりしないように、また他の入場者の迷惑にならないように十分ご注意下さい。場合によっては撮影・模写を禁止することがあります。重大な過失がある場合、弁償していただくこともあります。
- ⑥ 撮影した写真やビデオを営利目的に使用する場合は、聖天山の文書による認定を受けて下さい。
- ⑦ 場内のうち、透塀（玉垣）内での携帯電話の使用はお断りします。
- ⑧ 場内では係員の指示に従って下さい。場合によっては、めぬまボランティア「阿うんの会」による説明があることがあります。
- ⑩ 入場については、聖天山の判断または都合により入場を中止する場合があります。
- ⑪ 場内にトイレはありませんので、ご承知下さい。
- ⑫ 一度出場すると再び入場することはできません。
- ⑬ 入場券の△部分の切り取られたものは入場券としては無効です。

お願いとご注意

妻沼聖天山 年中行事

元旦	初詣
2月 節分	年男年女豆まき祭
3月第2土・日曜日	浴油万日講参拝
4月18日・19日	春季大祭
7月第1土曜日	開基実盛公忌
8月13日・15日	盆まつり
10月18日・19日	秋季大祭
11月中	七五三祈願祭
12月22日	星祭厄除祈願祭
12月31日	除夜の鐘
毎月1日・15日・18日	朝参り読経会
毎日8日	夕勤行の会
毎月1回期日不定	写経会

境内伽藍・仏像修理勧進

本殿保存修理工事にあたっては多大の勧進にお応え下さり浄財をご喜捨いただき、誠に有り難うございます。

完成した本殿の彩色も日照風雨に曝されているため、劣化が激しく、今後たびたび補修をする必要があります。更に、今回の修復で飾れなくなった多くの絵馬の揭示施設・重文の貴惣門をはじめ仁王門・平和の塔・金剛殿など境内建物の補修・仁王像の修理等、枚挙にいとまがありません。先祖の心を後世に引き継ぐために、一層のご信助をお願い申し上げます。この経費に充当させていただきます。

なお、ご浄財は直接ご寄附いただく方法と写経奉納（一巻千円）による方法があります。

妻沼聖天山 歓喜院

〒360-0201 埼玉県熊谷市妻沼一六二七
☎〇四八―五八八一―一六四四